[海上保安庁情報誌] Japan Coast Guard Journal

かいほジャーナル

JCG

愛します！ 守ります！ 日本の海

Vol. 80 | 2019 AUTUMN

特集 第七管区海上保安本部 福岡航空基地

航空機の機動力を生かし国境管区の海を守る

かいほジャーナル

CONTENTS

Vol.80
2019 AUTUMN

PHOTO GRAVURE

1 世界の海上保安機関と協力深まる

2 未来に残そう青い海～海洋プラスチックごみ対策の推進～

2 練習船「こじま」世界一周を終え日本に帰港

3 東京オリンピック・パラリンピックまであと1年～官民一体となった合同訓練を実施～

3 北米水上安全組織関係者が初来日～日米の水上安全協力体制の構築～

4 [特集]第七管区海上保安本部
福岡航空基地
航空機の機動力を生かし
国境管区の海を守る

12 NEWS FLASH

裏表紙
INFORMATION
海上保安庁音楽隊 第26回定期演奏会

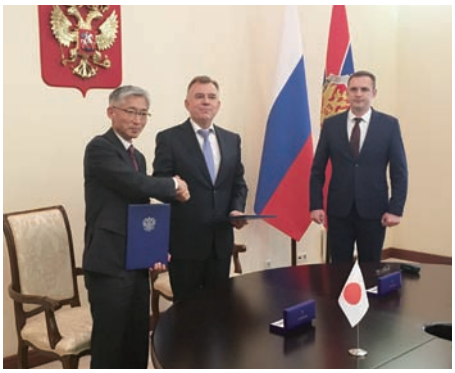
Photo Gravure

1 世界の海上保安機関と協力深まる

ブルネイ王立警察との海賊対策にかかる意見交換を実施

日本・フィリピン・インドネシア
三国合同排出油防除訓練

インドネシア海上保安機構と
海上安全分野における協力文書の交換



日露海上警備機関長官級会合

MCT初の女性派遣協力官からベトナム海上警察の女性職員へ身体検査の方法を指導。

パラオの海上保安当局の職員に対し、心肺蘇生法の実技指導を実施。

６月１７日から約１か月間、東南アジア周辺海域等における海賊対策及び日本・フィリピン・インドネシア三国合同排出油防除訓練実施のため、巡視船「つがる」をブルネイ・ダルサラーム国及びフィリピン共和国に派遣しました。

能力向上支援の専従部門である「海上保安庁モバイルコーポレーションチーム（MCT）」は、チーム初の女性派遣協力官を含む職員らをベトナム海上警察やパラオの海上保安当局へ派遣し、「法の支配に基づく自由で開かれた海洋秩序の維持・強化」に貢献しています。

また、６月２６日にはインドネシア海上保安機構と海上安全分野における協力文書の交換をしたほか、７月１８日にはロシア連邦保安庁国境警備局長官との間による「日露海上警備機関長官級会合」が開催され、引き続き両機関の良好な連携・協力関係維持していくことで一致しました。

Photo Gravure 2

未来に残そう青い海 ～海洋プラスチックごみ対策の推進～

近年、海洋プラスチックごみによる汚染が地球的規模の課題となっているなか、５月３０日から６月３０日までの期間を「海洋環境保全推進月間」と定め、「未来に残そう青い海」をスローガンに、次世代を担う子供たちを中心とした多数の方々に、身近なごみが海洋汚染に結びつく現状を体感してもらう等、海洋環境保全の意識高揚につなげるための取り組みを各地で行いました。

また、公益財団法人 日本財団の「CHANGE FOR THE BLUE」の取組と連携し、「海ごみゼロウィーク」※1一斉清掃への積極的な協力・参加などを行いました。

※1「海ごみゼロウィーク」一斉清掃とは
「Plastics Smart（プラスチック・スマート）」を推進する環境省及び「CHANGE FOR THE BLUE（チェンジ・フォー・ザ・ブルー）」を推進する公益財団法人日本財団による海洋ごみ対策に向けた共同事業の1つで、５月３０日（ごみゼロの日）から６月５日（環境の日）を経て６月８日（世界海洋デー）前後までの期間を「海ごみゼロウィーク」として、海洋ごみ削減に向けた全国一斉清掃活動を行い、その取組結果を世界へ発信していくものです。

Photo Gravure 3

練習船「こじま」世界一周を終え日本に帰港

８月３日、専攻科実習生４１名、国際航海実習課程研修生２名、乗組員４４名を乗せた練習船「こじま」は世界一周の遠洋航海を終え、広島県呉市の海上保安大学校に帰港しました。

今回の航海では、４月２６日に呉を出港した後、太平洋を横断しサンフランシスコ、パナマ運河を通過しニューヨーク、ギリシャ・ピレウス、スエズ運河を通過しシンガポール、ベトナム・ダナンの４ヶ国５都市に寄港し、総日数１００日間、総航程約２６，０００海里（約４８１，５２０キロメートル）に及びました。

実習生は船舶運航実習や各種訓練を通じ、船艇初級幹部として必要な知識、技能を修得するとともに精神力、実践力及び統率力の練成を図りました。

更に一部の航海では、外国の海上保安機関職員も同乗し、実習生とともに訓練に励むなど、国際感覚の涵養と海上保安機関同士の信頼・協力関係の構築・促進にも努めました。

Photo Gravure 4

東京オリンピック・パラリンピックまであと1年
～官民一体となった合同訓練を実施～

大臣激励

追跡・捕捉訓練

流出油被害拡大防止訓練

東京都公園協会の水上バス船内での不審者制圧訓練

8月5日、東京港晴海ふ頭において、警視庁、東京都港湾局、東京消防庁及び公益財団法人東京都公園協会が参加した合同訓練を実施しました。訓練には、石井国土交通大臣をはじめ、多数のセキュリティ関係者にご視察いただくとともに、大臣から訓練参加者に激励をいただきました。

「逃走船舶の追跡・捕捉」事案を想定した訓練等を通して、各機関との連携強化や事案対処能力の向上を図りました。

また、訓練当日は気温35度以上の猛暑日であり、大会期間中における酷暑対策装備の１つである、保冷剤の入った「クーリングベスト」の効果も確認できました。

Photo Gravure 5

北米水上安全組織関係者が初来日
～日米の水上安全協力体制の構築～

カヌーの安全運航技術の確認

本庁表敬訪問及び意見交換会

ＪＢＷＳＳ

Water Safety Guide
海上保安庁

「ウォーターセーフティガイド」とは、カヌー、SUP、水上オートバイ、ミニボート、遊泳などのウォーターアクティビティについて、誰もが安全に安心して楽しむために知ってほしい情報をまとめた総合安全情報サイトです。

https://www6.kaiho.mlit.go.jp/info/marinesafety/00_totalsafety.html

※技術確認の結果は、海上保安庁の「ウォーターセーフティガイド」に、カヌー及びSUPの安全啓発動画として掲載予定です。

6月、JBWSS（日本水上安全・安全運航サミット）に参加するため、米国の水上安全を統括するUSCG（米国沿岸警備隊）本庁のスコット・ジョンソン課長をはじめ、北米水上安全組織関係者9名が来日しました。

来日中の5日、横浜海上防災基地で行われた「カヌー及びSUPの安全運航技術の確認※及び意見交換会」では、日米の海上保安機関とカヌー及びSUP関係者が一堂に会することで、日本の民間関係者の安全意識の高揚に繋がると共に、参加した米国関係者からも高い評価が得られました。

北米水上安全組織関係者一行は、翌6日に海上保安庁を表敬訪問し、日米の水上安全の相違等を議題に積極的な意見交換を行いました。7、8日に東京海洋大学で開催されたJBWSSでは、日米の官民65団体が参加する中、米国の水上安全の取組みについての報告があるなど、日米の水上安全協力体制の構築に大きく寄与することとなりました。

国境管区の幅広い事案に対応

福岡空港に拠点を構える福岡航空基地は、第七管区海上保安本部所属の航空基地として九州北部および山口県西方の海域を管轄する。海上交通の要衝である関門海峡をはじめ、日本海と東シナ海を結ぶ対馬海峡や、太平洋へと繋がる豊後水道を擁し、外国船舶の往来や漁船の操業も多く、さらに釣りやマリンレジャーも盛ん。そして何より海を挟んで中国や韓国と接する国境管区だ。

福岡航空基地が設けられたのは昭和49年12月のこと。職員10名ほどでのスタートだったが、現在は総員76名となり、固定翼であるビーチ350を2機、回転翼のアグスタ139を2機という4機体制が整っている。平成14年からは機動救難士が配置され、平成22年には業務統括管理官が、さらに平成27年には航空情報官が配置されるようになり、業務範囲が広がると共に人員、装備共に拡充されてきたことが分かる。航空基地に機動救難士が配置されたのはこの福岡航空基地が全国初であり、管理課が設けられたのは羽田、関西、中部、那覇に次ぐ5番目だ。

「元々九州全体を管轄していた第七管区ですが、九州を二分して第七管区が北部を、第十管区が南部を受け持つようになりました。このような背景からもうかがえるように、九州は事案の多い地域です」と説明するのは福岡航空基地の小野

航空機の機動力を生かし国境管区の海を守る

いざというとき航空機でいち早く現場に駆け付け捜索や救助の初動を担う航空基地
福岡航空基地は、多くの船舶が行き交いマリンレジャーで賑わう国境管区の海を守り多様化する事案への対応に邁進している

取材・文／中島 敦（オンサイト）

本庁で航空機課の行政に携わり、熊本海上保安部長、隠岐海上保安署長などを歴任。「国境離島の隠岐では良い経験を積みました」という小野寺基地長。前任の千歳航空基地を経て4月に福岡航空基地で二度目の基地長に就任。

寺正則基地長だ。「入江や島が多く海岸線は複雑。多種多様な事案が発生する中で、海難救助から法令取締り、調査、輸送業務など、管内に20箇所ある保安部署が扱う事案に幅広く、迅速に対応しています」と続けた。

一刻を争う現場に急行

今年2月に福岡県の灯台瀬で発生した乗揚げ船乗員救助では、船長からの118番通報を受けて浸水した貨物船から船員5名を救助した。この時は夜間、それも荒天の中、ヘリコプターから傾いた貨物船に機動救難士が降下し吊上げ救助を行った。「航空基地に機動救難士が配置されていることで、このような事案にもヘリコプターで急行し、迅速に対応できます」と小野寺基地長。

また同じく今年4月には壱岐島で、釣り人が崖から8メートル転落する事故が発生。地元の消防が釣り人を崖の上まで引き上げ、そこからヘリコプターで吊上げ救助し壱岐空港まで搬送した。8メートルもの高さから滑落しながらも、肩の脱臼で済み大事に至らなかったのは幸いだった。翌5月にはタンカーからの118番通報を受け、急病人を九州大学病院の屋上ヘリポートまで搬送して医師に引き継いだ。眩暈と耳鳴りを訴え、その後ろれつが回らなくなった要救助者を、ヘリコプターの機内で処置しながらの搬送だった。

いずれの事案も一刻を争うものであり、ヘリコプターの機動力が存分に発揮された例と言えるだろう。また、いかにヘリコプターが機動力に優れているとはいえ、時には機内での処置が要救助者の生命を左右することもある。機動救難士の内、数名は救急救命士の資格を併せ持っており、現場で適切な救急救命処置を施すことができるのも大きな強みとなっている。

絶え間ない訓練の日常

しばしばヘリコプターから船や岩場といった現場にリペリング降下する。往々にして荒天時に海難が発生することを考えれば、降下先である船体が波で上下し激しく揺れていたり、マストやロープが邪魔になることも珍しくない。夜間や雨で十分な視界を確保できないこともある。

それゆえ機動救難士は日々の訓練を通じて、このような悪条件下でも、確実に安全に降下するための技術と体力の錬成に励んでいる。また船上に降下した際には、ヘリコプターとの干渉を避けるため即座にロープを外す必要があるが、海上保安庁では安全でありながら片手で迅速にロープを外せる専用の降下器を独自開発し現場で活用している。もちろん、1件1件異なる現場で多様な状況に対応する機動救難士に強靭な体力はもとより高い技術と幅広い知識が求められることは言うまでもなく、それは特殊救難隊出身の機動救難士が多いことからもうかがえよう。さらに搬送中の処置についても、知識の向上と訓練を欠かすことはない。

既に十分な技量、体力を身に着けている機動救難士だが、日々の訓練は欠かさない。要救助者に見立てたダミー人形に、救急救命処置を実施しているところ（写真左）。上の写真は、気管チューブによる気道確保を実施しているところ。

第七管区海上保安本部
福岡航空基地

多種多様な事案に対応している福岡航空基地の状況について小野寺基地長は、「年間の救難は80件前後です。機動救難士が対応していますが、救助する数はだいたい20数名ほど。多くがヘリコプターからの吊上げ救助です。全国的な比較はしていませんが、事案は多い方だと思います」と説明する。ちなみに年間の吊上げ救助人数は平成25年度以降、14名、13名、10名、11名と推移してきたが、平成29年度には21名、そして平成30年度に20名と、近年増加傾向が見て取れる。

常に変化に対応し進化

事故や救難以外にも航空基地で扱う事案の幅は広がっている。6月に福岡でG20福岡財務大臣・中央銀行総裁会議が開催されたが、この時は巡視船艇と連携しながら航空機で警戒監視を行った。また油の排出など広範囲で行われる可能性がある海上犯罪に対しては、第七管区海上保安本部の指揮の下で上空からの監視・採証活動を行い、複数の部署と連携して取締りを行っている。

さらに近年、大きな脅威となっているのが台風や大雨による自然災害だ。平成29年に発生した九州北部の豪雨災害では、第七管区海上保安本部に災害対策本部が設置され、この時は広島と鹿児島の航空基地からのヘリコプターや、特殊救難隊も

事案対応後、基地に戻ったビーチ350に給油し、点検・整備する。ちょっとした塗装の膨らみやザラつきなども見逃すことなく、大きな不具合になる前に対処している。

動員されての救助活動となった。福岡航空基地を拠点として救助活動を続け、37名の方を救助した。このように陸上災害であっても海上保安庁が対応することが増えており、海だけでなく陸上もカバーするオールラウンドな対応が求められている。

多様な業務に迅速に対応するべく、福岡航空基地では航空機の整備体制を見直し、シフト勤務体制を採用した。早朝出勤と午後出勤の2シフト制とし効率的に作業を進めることで、エンジン交換など複雑な作業も含めて整備期間の短縮を実現したのだ。

「海難救助に限らず、航空機に求められる期待は高く、内容も多岐にわたります」と小野寺基地長は言う。「いざというときに航空機が飛べない、では困るのでそのための整備期間短縮です。また、犯罪の監視活動など、従来は船で行っていたことを航空機も担うようになり、それに伴って装備面も強化され、上空からの監視能力も高まりました。犯罪に限らず、船舶がどのような状況にあるのかを把握したり、海上の捜索にも威力を発揮しています。ただ、装備された機器を扱うには相応の技能が必要ですから、機器を扱う通信士は改めて研修訓練が必要になります。通信士に限らず、新たな技術や役割に取り組み、対応できる業務の幅を広げています」

業務が多様化し、迅速な対応が求められる航空基地。いざ大規模な事案が発生すれば拠点となり、他管区や特殊救難隊と連携するなど、複雑な運用支援に応えなければならない。高まる期待に応えるべく、小野寺基地長は4つの航空基地運営の指針を掲げている。

まずは最近の事件・事故の傾向と特徴を掴み、対処手法を見直すこと。国境管区であり漁業やマリンレジャーも盛んな地域の特徴を理解し、変化していく事案の傾向や特徴を把握して捜査や救助の手法を絶えず再確認し進化させる。言葉にするのは簡単だが、ひとりひとりが意識を持って、常に新しいことに取り組む姿勢が求められる。

そして航空機の操縦技術と整備能力の向上。厳しい現場でも安全な飛行を実現し、また、常にその性能を存分に発揮できるよう万全に整備しておく。先に上げた整備のシフト勤務体制もその一環だ。

さらに、基本事項の徹底、マンネリ化防止、環境改善による安全管理。基本的な事は繰り返していくと、どうしてもマンネリ化しやすい。それを防ぐための工夫を常に考え実行する。また、機材を含めて作業現場の環境改善にも取り組む。

最後に、規律と活気を両立させること。海上保安官という立場上、規律はしっかりと保たなければならないが、あまりに締め付けて活気がなくなるのは望ましい姿ではないと、活気を持って業務に取り組むことを常に意識しているという。

実は、福岡航空基地では過去に二度、事故が起きている。それだけに安全対策には力を入れ継続的に取り組まなければならない。掲げられた4つの指針は、それぞれに意識の向上や技術技能の向上、環境改善などが織り込まれているが、肝になるのはそれらの指針を職員がどう理解し、実践するかだろう。

「パイロット、整備士、通信士など、それぞれに業務は異なりますが、一生懸命に取り組んでいくことで面白さを知り、自主性を持って知識や技能を向上していくことができます。自分達の仕事に誇りを持って遂行していく活気を大事にしていきたい。国境管区という地勢的な背景から、ここはどんな事案が起こってもおかしくないところですがベテランの職員も多く、業務を通じて吸収すべきものが多々あります。お互いに知識技能を高め合いながら活気ある職場にしていきたい」と言葉を結んだ。

訓練棟のクライミングウォールには、『海猿』の羽住英一郎監督や主演した伊藤英明のサインが残っている。

Interview

第七管区海上保安本部
福岡航空基地

『パイロットはツール。積極的に活用して欲しい』

Pilot 飛行士

白川 智隆 Tomotaka Shirakawa 平成18年4月入庁 福岡県出身

飛行機の主な業務はしょう戒です。国境に接する管区ですから、外国漁船が違法操業を行っていないか、見慣れない船がいないか等、しっかり上空から目を光らせています。以前は警備、しょう戒、救難というイメージでしたが、最近は例えば海洋情報部の依頼で低潮線の調査を行ったり、航空機から海底の地形をレーザー測定するなど、業務の幅も広がっています。

救助というとヘリコプターからの吊上げがイメージされますが、飛行機はその事前段階の“目の役割”。先行して天候を確認し、ヘリコプターが飛べるようであれば出動させる。予め現場の状況を伝えておくことですぐに救助に入ることができる。そういう連携を取っています。

パイロットというのは海上保安業務を遂行するためのひとつのツール。船では見つけることができない違反を上空から見つけたり、船との連携で取締りを行ったり。成果が出ればやる気に繋がりますから、いつでも「飛べるか?」って声を掛けて欲しいですね。

『自分で整備するからこそ安心して飛べる』

整備はもちろんですが、整備士は飛行中、パイロットの後ろで計器を確認し、音や振動で不具合の兆候がないかをチェックしています。万が一不具合が出たときには、どう対応すべきかをパイロットに伝えますし、またヘリコプターや巡視船が来る前に、救助する対象を見失わないように発煙筒を投下するのも整備士の仕事です。

整備はシビアに行い、日常点検では「いつもと違うこと」がないかに注意します。例えばちょっとした膨らみがあったり塗装が剥げそうだったりすると、塗装の下にクラックが入っていることもあります。以前、燃料のわずかな沁みがあって詳細に確認したら配管の繋ぎ目で漏れていたことがあります。5名の班で2機を担当していますが、自分達でどう整備しているのか把握している機体ですから不安はありません。必ずマニュアルに沿って整備しますし、マニュアルに記載がない場合はメーカーに問い合わせし、自分の考えだけで判断せずに、必ず根拠を元に整備しています。

Mechanic 整備士

松尾 拓弥 Takuya Matsuo 平成22年10月入庁 山口県出身

『現場を俯瞰して、目配り、気配りができるように』

Correspondent 通信士

佐々木 和人 Kazuto Sasaki 平成19年4月入庁 長崎県出身

通信士として巡視船に乗ったこともありますが、一度航空基地に配属されてからは航空の世界にいます。航空機では情報収集や採証活動など船とは異なる業務もあり、そういったことを勉強し知識をつけ、それなりに一人前になって少しずつ面白さが見えてきたところです。

ヘリコプターであれば、5人のクルーに機動救難士2名が乗り込みますが、乗員は毎回入れ替わります。最初はこの毎回クルーが変わるということに違和感もありました。誰が正しい、何が正しいというのではなく、人それぞれに考え方が違う部分はあり、得手不得手もあります。自分としては、そんな中でコミュニケーションを取り信頼関係を築いて「佐々木が乗るなら安心だ」と言われたらすごく嬉しいし、励みにもなると思っています。

以前、通信士は第三者的な立場で現場を見る位置にいると言われたことがあります。自分がやるべき仕事はもちろんですが、救助の現場をしっかりと把握して周囲に目配り、気配りができるよう心がけています。

『要救助者だけでなく、その家族まで思いやれる気持ちを』

潜水士になる前ですが、人が沈んでいると通報を受け現場に駆け付けたことがあります。「早く助けて!」と言われるのに潜ることができない。一般の方は海上保安官=潜水士というイメージがありますが、潜水士でない自分は潜れない。それがこの道に進むきっかけとなり、さらに救急救命士の資格も取りました。この仕事は救急と救助、両方の能力を兼ね備えていなければ成り立たない。そこに自分が必要とされているというやりがいを感じます。

鬼怒川が氾濫して出動し、外国人の子供を救助したときには、言葉が通じず不安だったその子に英語で「僕はスーパーマンなんだよ」って笑顔で言って和ませたことがあります。潜水士になるとき教官から「大事なのは思いやりだ」と指導され、そのまま今まで来ている気がします。要救助者だけでなく、その方の家族や一緒に船に乗っていた仲間の不安にも、思いやりの目を持って接していけるような人でいたいですね。

Mobile Rescue Technician 機動救難士

森山 将樹 Masaki Moriyama 平成16年10月入庁 長崎県出身

東日本大震災も経験したベテラン機長が語る救助の現場

「ベストは尽くした。でもそれは本当にベストだっただろうか？」

「第七管区は海難が多いんですよ。釣り人も多いしマリンレジャーも盛ん。漁船の救助も少なくありません」と語るのは、福岡航空基地でヘリコプターのパイロットを務める田島康志主任飛行士だ。エンジニアとしてサラリーマン勤務していたが、「どうしても航空機に関わりたい」と海上保安庁の扉を叩いたという経歴を持つ。予め固定翼の免許も取得していたが、入庁後はヘリコプターのパイロットとなったベテランだ。

数々の現場に携わってきた田島の経歴の中で、今も強く脳裏に焼き付いているのはやはり東日本大震災だという。当時宮城分校で教官を務めていた田島は、3月11日も教官室で執務中だった。地震発生後、整備教官と共に教育用ヘリコプターで被災地上空を飛び、津波が街を飲み込む様子をまざまざと目撃した。

「津波のキワを沿うように飛びましたが、記録映像を撮る以外は何もできなかった」

田島の操縦するヘリコプターは、被害状況を確認しながら自衛隊の霞目駐屯地に着陸する。仙台基地や空港が被災し基地機能が麻痺する中で、ヘリコプターがありクルーも揃っている田島らは何をすべきかを考え、消防機能を回復させるため消防のヘリポートへ向かい、孤立していた消防署の人達が稼働できるようにした。

「その後、3日間ぐらい夜通しで動いていました。そのうち徐々に基地機能が回復し統制が取れてきた。あの時は、極限状態の中、自分達のやるべき事、出来る事、問題点のあぶり出し等、クルーの能力を全て引き出して対応したと感じています」

もうひとつ、田島が今でも思い返す事案がある。漁船の船員がケガをし、出血多量となった事故が発生し、対応した事案だ。夜間、それもかなりの悪天候で「ギリギリ行けるか行けないかという状況」で現場に到着し、機動救難士が船に降下して吊上げ救助したのだが、彼らが到着する直前に要救助者は心肺停止となり、帰らぬ人となった。

「あと10分、いや5分早ければ心肺停止にはなっていなかったかもしれない。もちろんベストを尽くして最短時間で現場に向かいましたが、もう少し早く飛び立てなかったのか？　もう少し速く飛べなかったのか？　と今でも振り返ります」

具体的に何かが遅れたということではない。それでも「あと5分早く到着していたら」という思いを忘れることはないという。

事案が多い第七管区だが、これまでの経験を通じて田島が意識しているのは、チーム全体でミッションをこなすことだという。

「昔は機長の腕さえ良ければ吊上げ救助ができると思っていましたが、やはり個人の能力は限られています。定点でホバリングするパイロットの操縦と、そこまで機体を誘導し、タイミングを見計らい吊り上げるホイストマン、現場と基地との情報のやりとりを円滑にする通信士、不安定な状況で降下する機動救難士。この4者の能力をさらに引き上げなければという意識を持っています」

パイロット
田島 康志 Koushi Tajima

福岡航空基地が対応した主な事案

日付	事件概要
昭和 51年2月6日	福岡県芦屋妙見埼北東において座礁した韓国籍貨物船から乗組員7名を吊上げ救助
昭和 51年10月11日	福岡県藍井島の磯場から孤立した釣人17名を吊上げ救助
昭和 52年5月15日	長崎県壱岐北方の座礁船から乗組員10名を吊上げ救助
昭和 52年7月23日	福岡県沖ノ島北方海域において領海侵犯した逃走不審船の追尾
昭和 56年4月19日	長崎県中五島西岸の磯場から釣人26名を吊上げ救助
昭和 60年11月17日	山口県角島灯台南西において浸水沈没した韓国籍船船から乗組員10名を救助、8名を遺体で発見・揚収
2年2月25日	長崎県美良島の磯場から釣人10名を吊上げ救助
3年11月17日	長崎県雲仙普賢岳の噴火に伴う災害対応
7年1月17日	阪神・淡路大震災に伴う災害対応
7年10月21日	福岡県沖ノ島北方における転覆貨物船から乗組員8名を吊上げ救助
10年2月8日	山口県六連島沖に乗り揚げたベトナム籍貨物船から乗組員21名を吊上げ救助
11年1月12日	長崎県五島白瀬灯台北北東において沈没したタンカーの乗組員を吊上げ救助
11年5月5日	花火大会見物時に座礁したヨットから乗組員6名を吊上げ救助
12年7月4日	福岡・沖縄サミット会場警備
13年9月22日	福岡県沖ノ島北北西においてカンボジア籍鮮魚運搬船から乗組員13名を吊上げ救助
14年7月29日	福岡県小呂島からの急患搬送
15年10月30日	山口県大島北西に乗り揚げた船船から乗組員1名を吊上げ救助
16年12月25日	長崎県生月島長瀬鼻付近の磯場から釣人1名を吊上げ救助

九州北部豪雨

福岡航空基地が扱う事案は種類、数共に多く、救助は海上に限られない。平成29年の九州北部豪雨では、第七管区海上保安本部に災害対策本部が設置され、福岡航空基地を拠点として救助活動が行われた。

その一方、チーム全体でミッションをこなし人命を救助した事案もまた、田島の心に強く刻まれている。

「4、5年前でしょうか。沈んだ転覆船の中に特殊救難隊の隊員が入って要救助者を引き上げたのですが、その時点で既に心肺停止状態でした。でも、機内における心肺蘇生の救急救命処置で息を吹き返し、待機していた救急車に引き継いだことがあります。ヘリレスキューに行って、吊り上げて、蘇生させて帰ってくる。一連のヘリレスキューの醍醐味をその時体感しました。この思いは今でも強く仲間とも共有しています」

第七管区海上保安本部
福岡航空基地

\海上保安庁YouTube/

救助の現場を動画配信

機動救難士が貨物船に降下して救助する様子をご覧いただけます。

令和			平成													
元年8月24日	元年6月	元年5月21日	31年4月3日	31年2月1日	29年7月	27年5月29日	26年5月3日	25年3月4日	24年4月19日	23年3月11日	22年5月19日	21年1月15日	19年1月30日	17年12月22日	17年7月5日
福岡県筑前大島北東において大型客船からの傷病者吊上げ救助	G20福岡財務大臣・中央銀行総裁会議警戒監視	福岡県筑前大島北西においてタンカーから傷病者を吊上げ救助	長崎県壱岐の磯場において転落・負傷した釣人1名を吊上げ救助	福岡県灯台瀬付近乗揚げ貨物船から乗組員5名を吊上げ救助	九州北部豪雨災害対応	鹿児島県口永良部島噴火に伴う災害対応	山口県阿武町の磯場から釣人2名を吊上げ救助	長崎県対馬沖において漁船から負傷者1名を吊上げ救助	福岡県筑前大島沖の転覆船からの吊上げ救助	東日本大震災に伴う災害対応	大分県中津沖において転覆した船舶からの吊上げ救助	長崎県壱岐北方において漂流したタグボートの曳航作業対応	長崎県対馬北端乗揚げヨットから乗組員5名を吊上げ救助	ロシア籍貨物船船内における両足切断患者の急患輸送	福岡県相島沖において転覆したプレジャーボート船内からの救助

NEWS FLASH

6月

6月7日
十管区

十本部
鹿児島県知事から第十管区海上保安本部へ屋久島大雨災害対応に係る感謝状を拝受

6月14日
九管区

伏木保安部
小学校で海洋環境保全教室

6月21日
六管区

宇和島保安部
災害の経験を踏まえ、ご当地うみまる・うーみん入りの非常用給水リュックを作成

六管区 宇和島 牛鬼バージョン

©JCGF

6月30日
学校

海上保安学校
舞鶴市剣道連盟主催の合同訓練を実施

7月

7月16日
三管区

三本部・横浜・羽田基地・特救隊
ピカチュウが海上保安官のお仕事を体験
～当庁業務紹介動画がYouTubeに～

七管区 長崎
龍踊りバージョン

©JCGF

7月16日
五管区

神戸保安部
オリジナルイラストのリーフレットで花火観覧船の事故ゼロを目指す

作者：大待 雄治郎 次長

©2019 Pokémon. ©1995-2019 Nintendo/Creatures Inc. /GAME FREAK inc.

空編　海編

7月23日
二管区

二本部
震災復興のシンボル「めんどくしぇおのくん」とコラボ！
～118番周知・啓発グッズを引渡し～

7月30日
学校

宮城分校
航空整備基礎課程第57期修了式を実施

8月

8月3日 十一管区
十一本部・那覇基地
夏休み職場体験学習～知ろう！学ぼう！海保のおしごと～小学生等約120名が参加

8月7日 本庁
政策評価広報室
冒険！発見！国土交通省 こども霞が関見学デーに協力

海の事故ゼロキャンペーン

7月16日～7月31日

令和元年7月16日(火)から31日(水)までの間、海の事故防止を推進するため、『海の事故ゼロキャンペーン』を行い、全国各地で

①小型船舶の海難防止

②見張りの徹底及び船舶間コミュニケーションの促進

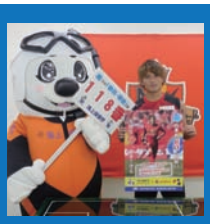
③ライフジャケットの常時着用等自己救命策の確保

を呼びかけました。

2019 ミス日本「海の日」
髙橋 梨子さん

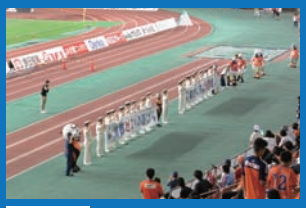
全国の活動状況

福島 フラガールとコラボ！



四本部 宮原 和也選手がポスターに

浜田 ケーブルテレビに出演

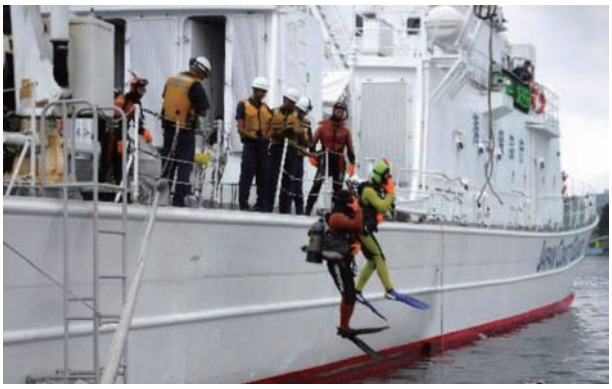


九本部 アルビレックス新潟主催試合で周知

六本部 ウルトラマンゼロと海難ゼロ作戦

8月7日 七管区
対馬保安部
厳原港沖にて漁網に絡まったウミガメ2匹を救助！

8月20日 四管区
鳥羽保安部
三重県消防学校水難救助教育指導者との合同訓練を実施



7月3日 一管区
一本部
札幌市内の小中高等学校 計315校に118番を周知

7月4日 八管区
舞鶴保安部
園児達から七夕飾りのプレゼント

かいほジャーナル 80号
2019年10月11日発行　編集・発行：海上保安庁 政策評価広報室
本誌掲載の写真、イラスト及び記事の無断転載を禁じます。

INFORMATION

海上保安庁音楽隊
第26回定期演奏会

2019 11.28 THU
開場 18:00
開演 19:00

東京芸術劇場コンサートホール
東京都豊島区西池袋1-8-1
JR線・東京メトロ丸の内線・副都心線・東武東上線・西武池袋線
池袋駅西口より徒歩2分（駅地下通路2b出口直結）
※ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。

指揮
海上保安庁音楽隊技術顧問
荒井 弘太

演奏予定曲
海上保安庁音楽隊30周年記念委嘱曲
- GUARDIANS OF THE WAVES
- 喜歌劇「こうもり」セレクション
- Selections from ALADDIN
（「アラジン」より セレクション）　ほか

海上保安庁音楽隊
YOUTUBE動画
「GUARDIANS OF THE WAVES」

申し込み方法　はがき、インターネットのいずれかでお申し込みください。

■はがき応募　〆切：10月21日（月）必着

郵便はがきに下の要領でお申し込みください。
※往復はがきではありませんので、ご注意ください。

郵便はがき
100-8976
千代田区霞が関2の1の3
海上保安庁　政策評価広報室
定期演奏会　係

（おもて）

※必ずご記入ください。
- 郵便番号
- 住所
- 氏名（ふりがな）（代表者）
- 年齢
- 電話番号
- 応募のきっかけ（例：ホームページ、○○新聞）

※以下は、同伴者を希望する場合のみご記入ください。
- 氏名（ふりがな）（同伴者・1名）
- 年齢

（うら）

■インターネット応募　〆切：10月21日（月）午後6時

海上保安庁ホームページからご応募ください。
https://www.kaiho.mlit.go.jp/info/teien

- 応募は、お一人様1通のみとさせていただきます。複数応募はご遠慮ください。
- ご応募多数の場合は抽選とし、入場整理券（全席指定）の発送をもって抽選結果の発表に代えさせていただきます。
- 未就学児童のご来場・ご着席は、他のお客様のご迷惑となる場合がありますので、お断りいたします。
- 本演奏会には入場整理券（全席指定）が必要です。

※個人情報の取扱について
応募の際にご記入いただいた個人情報は、本演奏会の公募事務及び入場整理券の発送のみに使用いたします。

公益財団法人 日本海事センター 補助事業 ／ 後援：公益財団法人 海上保安協会

お問い合わせ先　海上保安庁政策評価広報室　03-3591-6361（平日午前9時30分から午後6時まで）

海上保安庁 JAPAN COAST GUARD

■海上保安庁　〒100-8976　東京都千代田区霞が関2-1-3　Tel. 03-3591-6361　https://www.kaiho.mlit.go.jp/
公式ツイッター https://twitter.com/JCG_koho　公式ユーチューブ https://youtube.com/channel/UC3yxhEkCZKaDa-SdzaWECaQ

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。